

チェックポイント① 玉川兄弟の像

玉川兄弟の像とは？

玉川上水の建設に大きな功績のあった「玉川兄弟」を永く称えるため、昭和33（1958）年、ゆかりの地である羽村取水堰付近に建てられた像です。右側に立ち、当時の測量器具である間縄を持っているのが、兄の庄右衛門で、左側で片膝をついて間竿を持っているのが、弟の清右衛門です。



行き方

- ①JR羽村駅西口を出て、交番左側の道を道なりに直進します。
- ②300mほど直進すると、6差路に突き当たります。直進方向にある、歩道橋の掛かった道に入り、下り坂を道なりに進みます。
- ③300mほど進むと左手側にお寺（禅林寺）が見えますので左折します。
- ④200mほど道なりに進むと羽村堰入口交差点に到着します。前方に橋（羽村橋）があるため渡ります。
- ⑤渡り切ったところで右手側を見ると、玉川上水に沿うように歩道がありますので、直進します。
- ⑥そのまま200mほど進むと左手側に「玉川兄弟の像」があります。

さらに見どころ！羽村取水堰！

兄弟像の奥に流れる多摩川。その上流に目を移すと大きな堰が見えます。これは東京都水道局が管理する羽村取水堰です。羽村取水堰は玉川上水と同時に建設された堰で、多摩川の水を玉川上水に誘導する、いわば玉川上水の始まりと言える場所です。江戸時代の技術を使った「投渡堰」という型式を取っている非常に貴重な堰となっており、平成26年には土木学会選奨土木遺産に選ばれています。



〈玉川上水全体図〉

